

月山～肘折温泉山スキー山行報告

日時：平成 31 年 4 月 13 日(土) 千葉 12:00→京葉・外環・東北道・山形道→道の駅にしかわ 17:30 着
テントで仮眠

4 月 14 日(日)起床 5:00→道の駅にしかわ 6:30 出発→弓平平公園にて集合 7:00→姥ヶ沢駐車場 7:30→月山リフト 8:00→月山頂上 10:00→念仏ヶ原 12:30→小岳 13:30→ネコマタ沢 14:20→大森山 16:00→朝日台 17:00(ゴール)→肘折温泉 17:30 到着 (宿泊)

4 月 15 日(月) 温泉宿 9:00→姥ヶ沢駐車場 11:00→常磐道経由で帰葉

参加者：リーダー Torasan(福島登高会)その他 8 名、薄井、池田継 (記録)

距離：22.2km、累計高度+1591m -2449m 行動時間 9 時間 30 分

今回はワンデイとしては山スキールートでも屈指の長さを誇る(ガイド本では基本 2 日間)月山～肘折温泉に至るロングルートだ。薄井さんはすでに 2 回経験して、もういいかなと思っていたのだが、池田にもこのロングルートの苦しみを是非味あわせたいとのご配慮により、初めて福島登高会の山行にお邪魔させて頂く事になった。

同日、菊池パーティが月山に 1 泊 2 日のツアーに出かけていて、彼らが宿で楽しい宴会をしているであろう頃に、近所の道の駅にしかわで仮眠用のテントを張り、ささやかな宴を行った。67 歳の K さん、そしてリーダーの Torasan、薄井さんの 4 人だが、お酒を飲めるのが Torasan だけで、Torasan は非常にがっかりしていた。

翌朝は 5 時に起きて朝食を取り、道の駅を出発し、集合地点の弓平平公園へ向かう。今回の山行は、そのロングルートと共に、車の回収が非常に難しい。終点の肘折温泉から、月山駐車場までは冬季通行止めのため、迂回路を 100km 車で 2 時間もかかるのである。日帰り組にとってはまさにこの点をどうクリアするかが大問題なのだ。今回は福島登高会の会長がこのドライバー役を買って出ていただき、なんとか山行が出来ることとなった。5 人以上の宿泊客がいれば、肘折温泉の旅館の方が往復 4 時間の道のりを送ってくれるという。大感謝である。宿泊組が直前で一人減り、送迎が危ぶまれたが特別に送迎していただきなんとか山行を行えることができた。

姥ヶ沢駐車場に向かう道のりだが、昨年と比べて雪の量が半端なく多い。もしかしたら例年並みなものかもしれないが、道中にある雪の壁の高さが 5～6m くらいはある。昨年は月山の山頂直下の道は雪が無く、板を担いで上がったが、今年はそのままシールで登れそうだ。駐車場に車をデポして、リフ



トまでシール歩行をする。リフトの係員からシールではリフトに乗れませんよと言われるが、良く考えればリフトから降りる時に危険なので、すぐに外す。今日は何回シールを付けたり外したりするのだろうかと考えながら動いたばかりで人もまばらなリフトに乗り込む。



リフトから降りて2回目のシール装着。風景は、4日前に降った雪の影響で、春スキーには一面真っ白できれいな景色が広がっていた。去年は月山に登れば半分終わり

だが、今日は月山山頂はあくまでも通過地点なので、サクッと山頂まで登る。雪の量はやはり多めで、初めてシールのまま山頂にたどり着いた。昨年お参りした神社は雪の下で屋根だけ出ていたが、高いところから失礼しますと神様につぶやいてお参りをした。月山は山頂付近の風が大変強いところで、とっととシールをはずし千本桜方面へ滑降を始める。



月山を望む



月山登りまだまだ元気



千本桜へ滑り込む



登高会はスキーが上手い



広大な斜面

月山の東面は広大な斜面が広がり、どこを滑っても OK で気持ちの良いところだ。ただし、今回は4日前に降った雪とその下の雪面とはっきり分かれたモナカ状の状態が良くなく、チョー気持ちイイところまでは行かない。ただ広大な斜面をクルージングする爽快感は良い天気と相まって快感である。そして今回のメンバーは福島登高会はじめ、エキスパートの面々揃いなので、とにかく速い。いつもの気分であるとあっという間に置いてけぼりを食らってしまう。太股がピクピクする中必死に付いていく。雪の状態が万全では無いので千本桜の急斜面はややびりながら慎重に滑り降りる。所々ブレーキがかかる箇所があり、前に吹っ飛びそうになるが、みんな一生懸命耐えていた。



月山山頂から約 4km ほどのクルージングを楽しむとシールを付けて念仏ヶ原避難小屋を目指す。福島登高会は登りもガツガツ登っていく。67 歳の K さんに付いていくことが出来ない。リーダー Torasan も 60 歳だが、どんどん進んでいく。平たい千葉に住んでいる民族と山に囲まれた所に住む民族の足腰は根本的に何か違うのだろうかと思ひながら、今後のトレーニングをしっかりとやらねばと気を引き締める。

避難小屋までは雄大な月山が背後に見える景色を楽しみながら進む。12 時頃に避難小屋に到着した。ここまで約 10km なのだが、まだ半分以下であるとは気づいていない。この後、小岳を目指し、ピークを過ぎて 2 度目の滑走し赤沢川から 3 度目の登坂。

この後のネコマタ沢を上から見た時に、今までで一番ここヤバイとこだと思った。スキー場なら絶対立入禁止である。そこを Torasan は楽しそうに滑っていったが、うねった雪にすぐに姿が見えなくなる。とにかくクラックや穴ぼこなど斜面の状況が全くわからないので、遠慮して比較的安全なサイドの斜面を途中まで降りる。薄井さんも去年どうやってここを滑ったのだろうかと思案しながら降りてくる。下から見上げれば確かに雪は続いているのだが、来年はちゃんと滑れるようがんばろう。





下から見たネコマタ沢



大森山の急登



大森山の山頂

全員無事に降りてきた後は、林間を進み 4 度目の登坂の大森山を登る。これがかなりの急斜面で、所々四つん這いになりながら登っていく。ここで 16 時となる。ほぼ計画通りであと 1 時間でゴールだ。ここで Torasan が水分不足かペースが遅れたが、みんなからの水やアリナミンやアミノ酸の補給を受けて無事復活した。下りも相変わらずの上級者コースの連続で一瞬も気を抜くことが出来ない。薄井さんの心労もピークだと思うが、残念ながら背負って降りることは出来ないのので心の中で応援する。



林間が続く



スキー上手いです

急斜面を降りきると、あとは平らな林道を通り、17 時に無事ゴール地点へ到着した。Torasan と K さん、薄井さん、池田の 4 名はこのまま肘折温泉に 1 泊なのでその後 30 分ほど更にすすみ温泉街まで歩いて行ったが、福島登高会はお迎えの会長の車で 2 時間かけて姥ヶ沢駐車場まで戻ることとなる。お疲れ様です。



ゴール地点



クライミング？



肘折温泉街



お疲れ様でした

今年は3月4月の積雪のおかげで雪が多かったので、全般的に問題が少なかったように思えるが、昨年のように雪解けが早かった場合はどうなっていたらと思う。ツアー終了後に薄井さんに来年も来ますか？と聞かれたがあまりに疲れていたもので、即答が出来なかったが、1週間経ってみると、来年も頑張ろうという気が湧いてきた。山は素晴らしい景色や感動を与えてくれるだけで無く、何かに向かっていく気力も与えてくれる存在なんだなあと感じる。



